

1.

元ふあい通信

—2015 冬—



目次

1. FIWC 九州とは
2. 委員長挨拶
3. 特集1 「年末キャンプ」
4. 特集2 「写真展」
5. 特集3 「JIA サポーター交流会@福岡」
6. チャイナキャンプ
7. フィリピンキャンプ
8. 耶馬溪キャンプ
9. 国内イベント
10. 年間会計報告
11. 役員を終えて

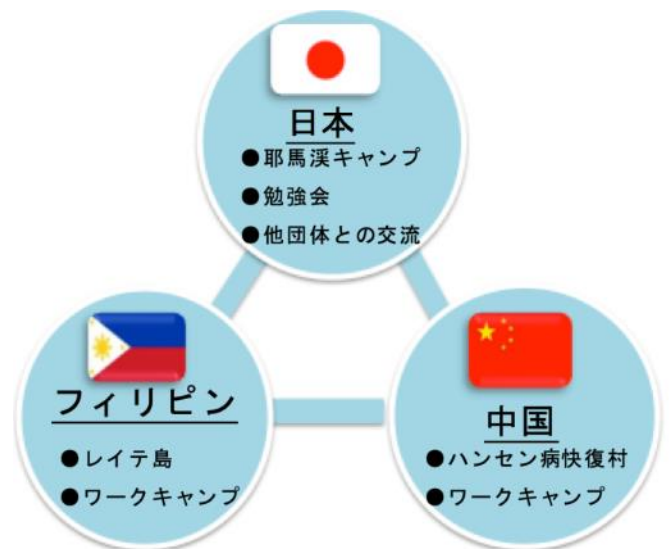
FIWC九州 とは...

Friends International Work Camp

FIWC九州（フレンズ国際ワークキャンプ九州）は、九州（主に福岡）の大学生が主体となり、学生のみで運営・活動をしている国際協力学生団体です。

「フィリピン」「中国」でのワークキャンプ・「日本」での国内活動の3本柱を中心に活動しています！

自由な発想で自由な活動を行う柔軟さがFIWC九州の特徴です(*^艸^)



委員長挨拶

2015年度、FIWC九州は「人と人とのつながり」「より良い次世代を創る」をキーワードに活動をおこなってきました。人との出会いや会話の中で、自分の人生が変わった！そんな経験したことありませんか。私はそのような場をもっと創っていきたくてと考えて1年間委員長を勤めさせていただきました。自分の夢や志、社会のことやそれぞれの興味関心を共有し合い熱く語れる場所がここにはある。それがFIWC九州の良さだと思います。目標達成のために今年初めての試みをいくつか行いました。具体的には、後期勧誘による人集め、5つの学生団体を集めて行った団体交流会、一般の方にも私達の活動を報告する写真展です。人とのつながりの輪が広がり、たくさんの新入も集まり、更にパワーアップしたFIWC九州を次の世代につなげられたのではないかと思います。1年間11人の役員メンバーと共にFIWC九州の運営を行う中で、本当に多くのOB、OGや現役キャンパーに支えられて活動が続けられていることを身にしみて感じました。特にたくさんの時間を割いて運営に携わり、影で支え一緒にFIWC九州を盛り上げてくれた役員メンバーには本当に感謝の気持ちでいっぱい입니다。1年間ありがとうございました。これからもFIWC九州をどうぞよろしくお願いいたします。

(九州大学3年 吳唯意)



特集1 年末キャンプ

年末キャンプとは？

奈良県の「交流の家（むすびのいえ）」にて、FIWC 関東・関西・九州と namaste! が集い、ワーク・活動報告・交流を行う1年に1度のイベント！

今年度は…

2015/12/27~30 に開催！土地の関係上、毎年九州からの参加者は少なかったのですが、なんと今年は12人も参加(*'ω*)九州の波がきてます！(笑)

●ワーク

交流の家の手入れとして壁のペンキ塗りと大掃除。白のペンキで壁をきれいに！大掃除もして家のなかはずっきり。



●活動報告

各団体があらかじめ活動を模造紙等にまとめてきており、それを掲示。それを各自で見て回り、気になったところ、いいと思った活動のところに「いいねシール」を貼り、目に見える形に。その後その団体の人から軽く説明をして質疑応答まで！

●ディスカッション

今回はなんと FIWC 関東の OB であり FIWC 九州の創業者であるぬけさんと同じく OB であり今や講義等もする立場でいらっしゃる西尾先生とぐっさんが来てくださっており、まずはその3人から講義をしていただきました。そしてそれを踏まえた上でのグループディスカッション！



ご飯はみんなで当番を決めて手作り！夜はお酒を飲んで語って、大騒ぎ(∧O∧)／

同じ FIWC でも活動の仕方はさまざまに語り合う声が途切れることはありませんでした。同じワークキャンプをしている仲間ですが、形式はさまざま！しかも FIWC 九州は現在活動地域はフィリピン、チャイナ、国内ですが、インドネシアや韓国で活動しているところもあるので刺激的なお話がたくさん！

●交流の家

長年 FIWC 関西に携わっている柳川さんが現役のころ、ハンセン病の方がある宿泊施設でその病気を理由に断られたという話がありました。

ハンセン病患者というだけで宿泊を受け入れない、そんな世の中に憤りを感じ、ハンセン病の人だって、誰だって泊まれる家をつくろう！ということのでつくったのがこの交流の家。

しかし当初はハンセン病理解を得るのは難しくこの交流の家近隣の方たちの反対がすごかったそう。



「ハンセン病の人がこの近くにくるなんて嫌だ」と。反対運動で闘いになったこともあるといいます。

そんななかでも柳川さんたちが築いたこの交流の家で全国の FIWC が集う年末キャンプ。FIWC として活動するのは学生という短い間だけれど、それぞれに熱い想いを持っているということを改めて知る機会だったのかもしれない。

(文責 野中くるみ)

今年もたくさんの参加、
お待ちしております(^^)／



特集2 写真展

FIWC 九州写真展

日時：2016年1月18日（月）～29日（金）

10時～19時

場所：アクロス福岡3階「こくさいひろば」



アクロス福岡3階こくさいひろばで1/18～1/29まで写真展を開かせていただきました。FIWC九州全体としての写真展を行うのは今回が初めてということで、OBのしーやんさんのアドバイスを仰ぎながら役員を中心としたメンバーで試行錯誤しながら準備を行い、無事2週間の展示を終えることが出来ました。ご来場いただきました方々、準備にお力添えいただきました方々、ありがとうございました。



今回の写真展の一番の目的は、一般の方々に向けた広報です。今まで私達は学生にのみ焦点をあてて、メンバー集めのための活動報告や勧誘を行っていましたが、その他の世代の方々に私達の活動を知ってもらう機会がなかなかありませんでした。中学生や高校生に写真展を見てもらって、「私も大学に入ったらこんなことしてみたい！」って、社会人やそれ以上の世代の人に、「学生がこんなことをしているのか！自分も頑張らないと！」って少しでも思ってもらえたらいいな。そんな想いで写真展を開きました。



「笑顔」をテーマに写真をたどって一周すると私達の活動の内容や様子が伝わるようにレイアウトを行い、最後にたどり着いたブースで自分達の選ぶ最高の笑顔の写真を展示しました。笑顔の写真の裏に隠されたそれぞれのストーリーが少しでも見る人に伝われば幸いです。展示期間中、西日本新聞、毎日新聞の2社から取材を受けました。その甲斐もあって多くの方にご来場いただき、たくさんの暖かいメッセージをいただき本当に感動しました。また、新たな人との出会いやつながりも増えて、FIWC九州の広報手段の選択肢も広がり、非常に収穫の大きい写真展になったと思います。今回の経験を生かして今後もFIWC九州からの情報発信の機会を増やしていきたいです。

(文責 吳唯意)

特集3 JIA サポーター交流会@福岡

～JIAを支える面白い人達と出会う～

JIA サポーター交流会

日時：2016. 1.17 Sun

場所：あすみん

先月 1.18 日に僕たち FIWC 九州がチャイナでキャンプを行うにあたり、提携しているハンセン病快復者支援団体「JIA - 家-」から代表の原田燎太郎氏（以下、タイランさん）と菅政子さんが福岡にやってきてくれた。福岡からは 2015 夏中国キャンプでのカンファレンスで会い、タイランさんに再会を願う人、JIA が実際にどのような団体か、JIA にはどんな人がメンバー何だろう、ハンセン病快復村の課題に最前線で向き合う人は何を感じているのだろう、等様々な思いや興味を抱いた人が参加してくれた。この交流会では JIA について話を聞く“理解する部”と参加者がディスカッションに参加する”深める部”の二部構成で行われた。



第一部では JIA についての説明をタイランさんが行った。ハンセン病快復村に行ってみて実際に感じたこととは何か、自分は何に苦しんだか、



本気で物事に取り組んでいる人の言葉には凄味、優しさがあった。「キャンパーと村人、じゃない。アンタと俺。1 人の人間としてのあたりまえの関係がそこにはあった。」これはキャンプを経験した人にとてすごく共感できる話で、キャンプに興味がある人に最も伝えたいことだと自分も思う。

第二部では JIA の二人からだされたテーマに沿ってディスカッションを行った。「なぜ交流会に来たのか」、「社会を少しよくするために自分はなにができるだろうか」の 2 テーマである。前者はみな意見を出しやすい議題で議論する下地ができた。後者では様々な意見がでるも、「何をするかじゃなくて、大事なはその行動にどんな思いがこめられているか」という点で一致した。

この交流会は双方向性があり、JIA の人達にとって、参加した人にとって、とても実りのある時間になったことは言うまでもないと思う。

（文責：佐藤鴻）

チャイナキャンプ

チャイナキャンプは現地 NGO「家 - JIA -」の中国人学生とともにハンセン病快復村にて行っているワークキャンプです。かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人たちは、完治してもなお後遺症や周囲からの差別のために不便な生活を強いられています。私たちはキャンプを通して村のインフラ整備や村人の生活サポート、イベントを企画して村人たちと楽しい時間を共有します。ワークという目に見えるものだけでなく、村人たちとの交流によって彼らが生きてきた道を知ること、自分が彼らに対してできることは何か、社会の中での自分の在り方などを感じたり考えたりする時間が多くあります。

2013年以降、キャンプに参加できるメンバーがいなかったため、キャンプが実施できない状況が続いていましたが、2015年度より再開への一歩を歩み始めました。



2015年度夏チャイナキャンプについて

キャンプテーマ：START UP～心～

中断していたキャンプが再開することと、FIWC 九州としても各個人としても新たに始動するというこ
とでこのテーマに。サブテーマは五感を使って色んなことを感じて学ぶことと村人や仲間のことを想う
という二つの心を大切にしていこうということで設定しました。

キャンプ内容

①橋 - QIAO - と家 - JIA - の合同キャンプ
参加者：2名（他2団体は17名）
場所：湖南省 沅陵高家ハンセン病快復村
期間：2015/8/13～8/24
キャンプ費：260元
ワーク：貯水プールの建設、水道の整備、
廃棄物処理場の建設
ハウスワーク：訪問、デイリーケア

②家 - JIA - の年に一度の総会と
泗按ハンセン病快復村の訪問
参加人数：4名
場所：広西省 広州市
期間：JIA 会員代表総会
2015/8/27～8/30
泗按村訪問
2015/8/31～9/4

2015年夏季チャイナキャンプはキャンパーによって内容が異なるものであり、手探りの状態での出発でした。しかし、このような状況であったからこそ、「チャイナキャンプは何なのかその本質を探りたい、経験したい、何ができるのだろう」と考え、春のキャンプにもつなげることができています。

夏季は二つの日程がありましたが、そのどちらでも多く経験がありました。中国の同年代の学生キャンパーたちと交流でき、ワークキャンプについてや互いの将来の夢などを熱く語り合えました。そして何より村では様々な村人に出会えた。村人たちと交流することで改めてハンセン病について考えることができ、今、それを踏まえて私たちがこの活動を通してできることは何かを考えることができました。心と心、笑顔があれば温かい気持ちになれることを知りました。

●2015年度春チャイナキャンプについて●

期間：2016/2/15～2/29

場所：広西省 桂林市 坪山ハンセン病快復村

参加人数：6名（家-JIA-の学生20名とともに）

2013年以前、チャイナキャンプでともに活動していた家-JIA-の桂林地区とともに行います。キャンプ参加後にもう一つ別の村を夏季キャンプの候補地として訪問予定です。

最後に

チャイナキャンプはOB・OGの方々や橋-QIAO-をはじめとする他の団体の協力のもとで今年度より再開できました。キャンパーの数は少ないですが、それぞれが熱い思いをもってキャンプに挑んでいます。FIWC九州のこれまでのキャンプの思いや意思を引き継ぎながら、素敵なキャンプをこれからも築いていきたいと思えます。今後とも応援よろしくお願ひします。

(2015年度チャイナキャンプリーダー

金納梨恵)



フィリピンキャンプ

2016 年春ワーク地について

場所：フィリピン共和国レイテ島タバゴ市
ブタソン I 村

期間：2016 年 2 月 18 日～3 月 18 日

内容：水道システムの改善

(4つの集落で6つの水道システムの改善を行う)

人数：18 人 (男 12 人、女 6 人)



ワーク地決定経緯

今回、前回まで約 10 年間キャンプを行ってきたマタグオブ市とは異なる市でワークを行うことに決めた。拠点を移動した理由は

- ① マタグオブ市でのニーズが
少しずつ減ってきた
- ② タバゴ市は規模が大きく、
多くのニーズが見込める
- ③ 現地エンジニアの体調が良い間に
新しい場所で基盤を築いておきたい

この3つである。

昨年の夏に初めてタバゴ市で下見キャンプを行い、山奥にあるブタソン I 村を今年の春のワーク地に決めた。私たちが少し手を加えるだけで改善できるワークが複数あり、小規模で確実に利益が見込まれるという点から今回の下見キャンプのテーマ「First step」という新しい市で確実にワークを成功させ、信頼関係を築くという目標に沿ったワークであったため、ワーク地をブタソン I 村に決定した。

本キャンプに向けて

今回の下見キャンプでは初めて調査を行う市ということもあり、すんなりワークが決定できたわけではなかった。メンバー7人全員で迷いながら、ときには意見をぶつけ合いながらワークを決定した。一生懸命村人のために考えたプロジェクトを絶対に成功させたいというのが私の本キャンプを前にした気持ちである。村人の気持ちを第一に、村人と一緒にたくさん笑顔をつくる、そんな素敵な時間を生み出すことができれば私たちがキャンプをやる意味があるのではないかと思う。協力して下さったたくさんの方々に良い報告ができるように頑張りますので応援よろしくお願ひします (^ ^)

(2015 年度フィリピンキャンプリーダー 林田梨里子)

耶馬溪キャンプ



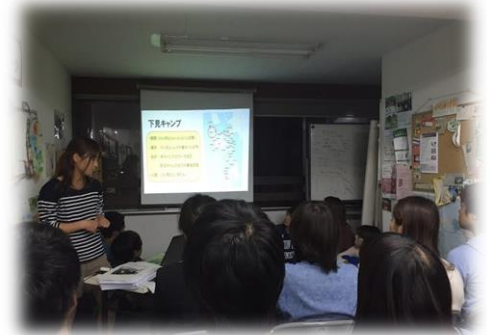
こんにちは！2015年度の耶馬溪係を務めさせて頂きました西南学院大学2年の小林典史です。耶馬溪キャンプでは、大分県中津市にある、FI 関西のOB 鈴木さん（1970年代に活躍された韓国キャンプリーダー（ハンセン病快復者のケア、建物修繕等）宅にお邪魔して、農業のお手伝いをしながら、普段の生活の中では考えることの少ない農業についての知識や問題への理解を深めます。農業のお手伝いとは、苗床作り、田植え、稲刈りで、5・6・10月に行います。今年度も3回とも無事に終わることができました。毎回、学年を問わず新規で多くの学生が参加するので、一年生以外でも気兼ねなく参加できます。FIWC、または農業に興味のある方はぜひご参加ください。次回の耶馬溪キャンプは5月のゴールデンウィークを予定しております！

（耶馬溪係 小林典史）

国内イベント

夏季報告会

夏季キャンプの報告会を10月24日（土）に、博多のびおとーぷにて行いました。今回の報告会では、例年と同様にFIWCの団体説明、耶馬溪、フィリピンキャンプの報告に加えて、今年の夏から復活した中国キャンプの報告も行われました。新入生や、キャンプに興味を持ってくれた方、OB、OGなど沢山の人が参加し、報告が終わった後は、みんなで準備した料理を食べながら各キャンプやFIWCについて語り合いました。キャンプに参加したい、という声も多く、春季キャンプに向けてのいい報告会となりました。春季キャンプの報告会も、四月に行われる予定ですので、皆さん是非参加してください！



（国内係 田中友也）

10月FP

今回はFIWC九州のOGであるえりかろさんをお迎えし、マニラ新聞でのインターン経験のお話をいただきました。また、同じくOBのしーやんさん、FIWC 関東のなおとさんにもお越しいただき、ネパールキャンプとかつて原発建設予定地だった大間市でのワークキャンプの経験をお話していただきました。マニラ新聞でのお話や大間市のあさこはうすでのお話しはどれも驚くようなことばかりでとても勉強になり、私たちが行っている活動について再度考えるきっかけになりました。

学祭

今年度のFIWC九州は11月14,15日の西南学祭、11月21,22日の九大学祭にて、えふあい屋としてフランクフルトとスープを販売しました！今年は初の西南学祭への出店もあり、少し大変でしたがOB、OG、新入生の手伝いもあり、無事に完売することができました。

お店にはキャンプの写真やFIWCの活動を説明する看板などを飾ることによって、FIWC九州の活動を少しでも広めることができたのではないかと思います。ご協力してくださった方々、ありがとうございました。（国内係 岩永悟）



12月FP

今回のFPは、Project 架け橋・iTOP・TFT・APiの方々をお招きして5団体での勉強会



を行いました。今年は「広報」と「SNS」と係を分けており、この背景には「他団体との交流を行う」という狙いがありました。この勉強会はその足掛かりになったと思います。

1部では各団体の紹介を行いました。名前は聞いたことはあっても、何をやっているかはよく知らない団体の詳細を聞くことは、2部で行われる討論に向けて必要な互いの背景を知るのに大きな役割を果たしたといえ、また各団体の積極的な取り組みの話は想定外のものが多く、純粋に面白かったです。

2部では①学生団体継続に必要なこと、②先進国と発展途上国の20円の違い、③自分の地域の他人とかかわるメリット、④貧困村に住む人々の身になって自分が望むこと、⑤食・農を身近に感じる瞬間とは？と各団体がテーマを出し合いました。諸国間の食糧較差に取り組むTFT、東日本大震災の復興に貢献する架け橋、糸島市の活性化を目指すiTOP、農業の新たな可能性を探るApiQには自分たちFIWC九州とは全く異なる背景がありあます。取り組み方はそれぞれですが、本気で直面する諸問題に取り組む他団体の同世代との意見交換はFIの皆にとって刺戟的な時間になりました。

（広報 佐藤鴻）

年間会計報告

（会計 益坂和）

収入合計 393,633 円 支出合計 214,799 円 最終残金 178,834 円

役員を終えて

呉唯意（委員長）



このメンバーで1年間役員ができて、本当に楽しかった！！です。個性豊かな下級生9人と共にあやかと2人で委員会を引っ張って行くことになり、はじめは私の独断政治にならないかと心配していました。運営を続けていくうちに役員のそれぞれが責任持って行動し積極的に意見を出してくれるようになりました。そんな皆の成長が何よりも見てて楽しかったし嬉しいことだったと思います！楽しい思い出をたくさん、ありがとうございました(^_^)

江原文香（副委員長）



副委員長として1年を通して満身に仕事ができたとはいえませんが、役員や他のFIメンバーの多くのサポートのおかげで1年

を終えることができました。役員達の頑張りや成長、FIの皆さんが楽しそうに活動している姿を見れたことが1番嬉しいです。1年間ありがとうございました^^

陣内美味（副委員長）



4年間のFIの活動の中の最後の数ヶ月役員として運営側にまわれ、とても貴重な経験が出来ました！私は特にこの仕事をしたって感じではないけれど、個人的には定例会が毎回ワクワクでした☆後輩たちがどんどんFIを進化させてくれるのを楽しみにしています。

岩永悟（国内係）



1年早かったです。こんなに早いなんて泣 国内係でまだまだイベント企画したかったのにな

ー もっと役員したいなー
まあ流石に2年間連続国内係はできんかー、は一寂しい
ということで今期も国内係になりました。今期もFIWC九州をよろしくお祈いします。

田中友也（国内係）



去年のフィリピン本キャンプからFIWCに参加させてもらい、その後に役員になって一年が経ち、任期はあつという間に終わってしまいました！一年間色々なイベントを企画し、それに参加するのは大変な事もありましたが、とても楽しかったです。お疲れ様でした！

>>つづく…

林田梨里子（国内係）



企画することや人の前に出て発表など経験がたくさんできて成長できたなって思います。FIにたくさん関わることができてよりFI好きになりました(^^)大変なこともあったけど楽しかったです！ありがとうございます。

小林典史（耶馬溪係）



耶馬溪係としての仕事は年間で3回ありましたが、どれもとても勉強になりました。農業についての理解は勿論の事、タイムスケジュールや人数の管理、会計など、他のサークルにいたらやっていなかったであろうことを年に3回もやらせてもらえたのはとても貴重な経験となりました。自分の力の及ばない部分

で迷惑をかけましたが、周りのみんながフォローしてくれたので大した問題もなく進めることができました。本当にありがとうございました。来年度からも新耶馬溪係が頑張るので、耶馬溪キャンプを是非よろしくお願ひします。

益坂和（会計）



マメでない私が会計で大丈夫かな、と思うこともあったけど最後に収支がなんとか合ったときの達成感はとってもいい経験でした！私に役員をさせてくれた委員長にはほんとに感謝しています。楽しい役員のみennaとFIに関わって、本当に役員してよかったです！ありがとうございます！！

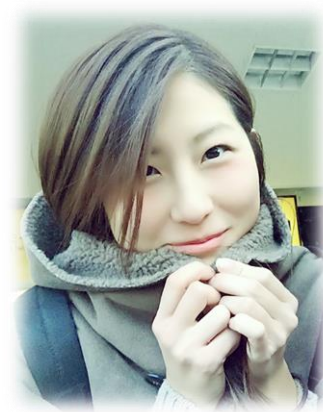
野中くるみ（SNS係）

1年間役員として活動できて本当によかったです！といっても前半はかけもちで忙しくてイベントも全然参加できなかったけど、twitter、Facebook見てくださってありがとうございます

た！(๑´ㅂ`๑)



平野佳奈（SNS係）



1年間SNS係としてくるみと一緒に役員をさせてもらいました。正直仕事は地味ではありますが、なによりFIの活動が楽しかったからこそ、楽しんでTwitter/FaceBookの更新を行うことができました！この1年間イベントで写真を撮り続けてきて、わたしのカメラロールはFIのみんなの笑顔でいっぱいです(^^)ありがとうございます！

佐藤鴻（広報）



今年は他団体との交流をしたいとして SMS とは別に設けられた広報。決して大きくはない団体がその知名度を保つ、伸ばすためには一団体だけの取り組みではさすがに限界がある。それに団体に新たな風、新しい視点を取り入れるためにも他団体の存在、交流が重要になるのがよく分かった。役員の中で真剣に考えたことを口に出す、っていうのは実は普通の大学生活には足りないことでいい機会になった。自分の仕事ぶりや達成度にとってもじゃないが満点はつけられないけど、当初の目的へ一歩でも近づけて良かったと思う。ってかホッとした。

池山愛奈（広報）



初めての役員ということで、最初はすごく不安でしたが、このメンバーで役員をすることができて本当に良かったです！大変

なこともあったけれど、すごくよい経験になりました。広報としては、やり残したと感ずることもあるので、来年度も引き続き頑張りたいと思います★
役員として、キャンパーとしてたくさん FI にかかわることが出来、さらに FI を好きになった 1 年でした。来年度もよろしくお願ひします＼(^o^)/





発行元 FIWC 九州

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前 3-6-1

小森ビル 4-A

福岡 NPO 共同事務所

「びおとーぷ」内

E-mail : fiwcq@hotmail.com

Facebook : FIWC Kyushu

Twitter : @fiwckyushu

HP : <http://fiwckyushu.jimdo.com>